

第3回おだわら高齢者福祉介護計画策定検討委員会議事録

日時：平成26年7月10日（木）

午後2時30分～4時20分

場所：議会全員協議会室

出席委員 木村秀昭委員、渡邊清治委員、羽鳥孝郎委員、矢吹久美子委員、市川昭維子委員、川上聖嗣委員、長谷川剛委員、加藤馨委員、市川初江委員、藤間敬子委員、長岡正委員、石黒俊行委員、小泉道人委員、市川渉委員

（：委員長、：副委員長）

事務局 福祉健康部長、福祉健康部副部長、高齢福祉課長、高齢福祉課副課長、介護予防担当副課長、高齢福祉課高齢者相談係長、高齢福祉課主査、高齢福祉課主事、介護保険課長、介護認定担当副課長、介護給付係長、介護保険課主査

欠席者 奥村知弘委員

傍聴者 2名

【議事】

委員の紹介

事務局

（説明）

- ・資料1「第6期おだわら高齢者福祉介護計画策定検討委員会委員名簿」に基づき、神奈川県小田原保健福祉事務所長長岡正氏が着任したことについて説明。
- ・資料2「おだわら高齢者福祉介護計画策定検討委員会事務局出席者名簿」に基づき、異動により福祉健康部長山崎佐俊、高齢福祉課長苅谷一義、介護保険課長穂坂昌子が着任したことについて説明。

議題1 第5期計画の点検評価について

事務局

（説明）

- ・資料3「第5期おだわら高齢者福祉介護計画に基づく高齢者福祉事業及び介護保険事業の実施状況」に基づき、点検評価について説明。

小泉委員

（質問）

- ・特別養護老人ホームは38頁に示されている施設だけか。

事務局

（回答）

- ・市内の施設は 38 頁に示しているとおり、現在 7 施設であり、これから 1 施設が出来る予定。

小泉委員

(質問)

- ・特別養護老人ホームは満床の状態なのか。また、職員数は足りているのか。

事務局

(回答)

- ・ほぼ満床であり、職員数は基準を満たしている。

川上委員

(質問)

- ・徘徊認知症高齢者が話題になっているが、市では防災無線で呼びかけられている。昨年 25 件放送があり、そのうち 20 件が見つかったが、あとの 5 件はどうしたのかと思う。現在、徘徊認知症高齢者探索事業では GPS 電波を利用し探索していると思うが、実際に機能しているのか。機器を自宅に置いたままだと機能しなくなるが、効果について伺いたい。

事務局

(回答)

- ・徘徊認知症高齢者探索事業は家族からの申し込みとなり、受付をする際に、本人が機器を携帯できるか確認している。ご指摘のとおり、本人が携帯しないと機能しないため、今後も事業について検討する。

川上委員

(意見)

- ・認知症の高齢者を抱えている家族から、踏切事故を起こしたとき、保証金を請求されるということがあるので心配だと相談がある。ぜひ充実してほしい。

石黒委員

(意見)

- ・心身ともに元気でいたいのは誰もが思うこと。地域の身近なところで筋力向上トレーニングを実施されているのは、参加者にとって良いことと思う。身近なところで、もっと多く実施して欲しい。

事務局

(回答)

- ・この事業をもっと進めて行きたい。

市川(渉)委員

(意見)

- ・見込量が示されているが、この数値がよく分からない。見込量の設定が曖昧ではないか。目標値を設定した方が評価できるのではないか。
- 例えば、1つの事業に同じ人が何回も参加すれば実績は上がるが、広く市民に周知されているかは分からない。

委員長

(意見)

- ・老人クラブ加入は60歳からだが、60歳だとまだ仕事をしなければならず活動は難しい。対象年齢を上げることは出来ないのか。敬老行事対象者は75歳からであり、老人クラブは60歳からなので幅がありすぎる。

市川(初)委員

(意見)

- ・自分の地区では老人クラブは60歳以上の方を対象にし、今回7人の方に加入してもらった。定例会は日曜日に行っているが、なかなか厳しい。

加藤委員

(意見)

- ・個々の事業の点検評価はされているが、大きなくくりでの評価が見えない。委員が見ても事業の分けがわからないのに、市民の方が見てもわかりにくいと感じる。
- ・介護施設整備事業に関して、特別養護老人ホームはそこそこ稼働しているが、デイサービス事業者は84箇所あるが稼働率はどうか、職員数は足りているのか等課題はたくさんある。その辺も把握した上で計画を策定する必要がある。

木村委員長

(意見)

- ・しっかりしたものを作っていきたい。

議題2 日常生活圏域の設定について

事務局

(説明)

- ・資料4「第6期おだわら高齢者福祉介護計画における日常生活圏域の設定について」及び資料5「高齢者人口の見通し」に基づき、日常生活圏域の設定について説明。

渡邊副委員長

(質問)

- ・日常生活圏域を12にすると聞いているが、10にする理由は何か。

事務局

(回答)

- ・第6期の計画期間である平成27年から平成29年中には10圏域を設定する予定だが、国から第6期の計画は2025年を見据えたものを策定するよう指導があるため、第6期計画以降に12圏域に設定する考えである。

渡邊副委員長

(意見)

- ・段階において12圏域に近づけていく余裕を持ってよいのか。地域包括支援センター運営協議会で、地域包括支援センターの年次計画について議論しているようだが、12に合わせて進めて行くべきと考える。

事務局

(回答)

- ・第1圏域から第10圏域に分けた場合、人口が1万人から1万5千人となるが、第5圏域だけ4万2千人となる。ここを将来3分割していく考えであるが、現段階での今後の見通しとしては、第6期計画期間内での分割は難しいと考えている。7月の下旬に開催される「地域包括支援センター運営協議会」で改めて議論されるので、次回の検討委員会で結果を報告する。

渡邊副委員長

(質問)

- ・第5圏域が3分割できない理由は何か。

事務局

(回答)

- ・第5圏域は東富水、富水、桜井なので連合自治会単位での分割は支障ないが、地域包括支援センターの設置が難しい。

渡邊副委員長

(質問)

- ・地域包括支援センターをスローなペースで増やしていくのか。

事務局

(回答)

- ・6月に開催した地域包括支援センター運営協議会で年次計画を示し、平成29年度までに10圏域にするという計画に対しては、特に異論がなかった。

矢吹委員

(意見)

- ・地域包括支援センター運営協議会では第6期の計画は頭がないと思う。目標ということでは

数字を合わせておいた方が良いと思う。

- ・第6期計画でも12圏域にしたらどうか。

事務局

(回答)

- ・日常生活圏域ごとに1つの地域包括支援センターを設置したいと考えている。地域包括支援センター運営協議会の議論を受けて改めて結果を報告する。

渡邊副委員長

(意見)

- ・地域包括ケア会議の場でも地域包括支援センターについて議論している。地域包括支援センターを10と示すと、その先進まなくなる。

山崎部長

(意見)

- ・皆様方の意見を尊重し、第6期計画における日常生活圏域は12圏域とすることで調整する。

加藤委員

(意見)

- ・ケアタウン構想とのリンクが見えてこない。ケアタウン構想の中でこの計画がどう関連するのかが見えるとよい。

市川(渉)委員

(意見)

- ・高齢者人口の見通しは示されているが、高齢者を支える生産人口の見通しも載せた方がよい。高齢者人口だけだと老々介護になる。
- ・自治会が地域の中でどれだけ機能しているのか。例えば、宮本自治会は小学校区だと3校になる。支える側は小学校単位で活動しているが自治会は別になると聞く。自治会加入率も低下していると聞いている中で、高齢者の生活圏でよいのか、支える側の生活圏を考えるのか、もう少し加味して欲しい。

議題3 その他について

事務局

(説明)

- ・基本理念と基本方針について、次回、議題にしたい。基本理念を考えるにあたり、現計画の基本理念に対する意見を伺いたい。

矢吹委員

(意見)

- ・65歳以上の人を支える側になった計画ができれば良いと思う。シルバー人材センターを知らなかったが良い形で活動されている。その辺を取り入れたものになればよい。

小泉委員

(意見)

- ・「ケアタウンおだわら」がなぜ入っているのか。10年先、20年先を見据えたものを設定して欲しい。分かりやすく、見やすく、キャッチフレーズをつけるとよい。

羽鳥委員

(意見)

- ・「ケアタウンおだわら」が最後にあるから分かりづらい。前に持ってくると、すっきりするのではないか。

石黒委員

(意見)

- ・「ケアタウンおだわら」が括弧になっているからぼやけてる。

矢吹委員

(意見)

- ・「ケアタウンおだわら ともに生きる活力ある長寿・福祉社会をめざして」でどうか。

市川(昭)委員

(意見)

- ・同様意見。

川上委員

(意見)

- ・価値観を一つにまとめていかなければいけない。気持ちが一つになるような言葉があれば良い。

長谷川委員

(意見)

- ・「ケアタウンおだわら」を前にしたら良い。基本理念なので何年に一回変えるものではないと思う。

加藤委員

(意見)

- ・ケアタウンと計画がどうつながるのが見えない。

市川(初)委員

(意見)

- ・行政で皆さんの意見を含めて考えて欲しい。

藤間委員

(意見)

- ・皆さんの意見をまとめ、ケアタウンを生かしたものを作って欲しい。

石黒委員

(意見)

- ・「ケアタウンおだわら」をもう少し強調した方が良い。キャッチフレーズはあまり考えない方が良いのではないか。

小泉委員

(意見)

- ・「ともに生きる活力ある長寿・福祉社会をめざして」、「元気な高齢者はもっと元気に支えあおう」はどうか。

市川(渉)委員

(意見)

- ・長寿福祉社会というのは少し重いのではないか。

渡邊副委員長

(意見)

- ・基本理念は今回決めたらそれをずっと目指す。安心して住むためにということを市民の方に示したいなら、「ケアタウンおだわら」は使っても良いのではないか。医療にもつなげられるようなイメージのものができると良い。

木村委員

(意見)

- ・基本理念は変えないでよいと思う。事務局の考えが固まった時点で委員に情報提供し、次回の検討会で決定する。

事務局

- ・次回は8月下旬を予定。基本理念も含めた計画の理念について、主に審議していただく予定である。

以上